

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172500205		
法人名	株式会社セイヨウトレーディング		
事業所名	グループホーム ナンウェブ		
所在地	岐阜県安八郡輪之内町南波380-1		
自己評価作成日	令和7年1月4日	評価結果市町村受理日	令和7年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2172500205-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和7年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型の施設として、近隣の子ども園、小学校との交流や中学生の職場体験を受け入れています。また、地域行事への参加や地域のカフェへの参加等でも地域の方々との交流を深めています。交流によりつながりを大切にしている事が、認知症への理解を深める事や、しいては防災時の協力にもつながると考えています。利用者様にとって毎日の生活が丁寧な生活となる様に、ご本人様のペースや要望に合わせ個別性に配慮する事を意識して支援しています。看護師を配置し医療的な処置が必要な方も受け入れています。介護士との連携により看取りまで協力させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域密着型サービスの意義を踏まえ、全職員と理念を共有しながら、その実践に取り組んでいる。職員は全員が地域の住民であり、子育て中の人も多い。職員個々の希望に応じて勤務時間を調整したり、時には、土日に人手不足を補填する勤務などの協力を得ることが出来ている。出来る限りワークライフバランスに配慮するよう努め、職員の確保と定着につなげている。資格取得も推奨しており、研修参加時は勤務扱いとし、研修費用を支援するなど、人材育成に努めている。行政や地域と連携しながら、水害や地震等の災害対策の課題にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲げてあります。職員全員が意識しながら、利用者様の日々の生活を支援し、地域の皆様とのつながりを意識しています。	基本理念「愛をもって気遣い、真心をこめた介護で、地域と共に自立の手助けをします。」を、目につきやすい場所に掲示している。職員は日々、理念を確認し、意識しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様が認知症カフェへの参加をしています。また、地域の祭りや文化祭の参加。地域の子供園と小学生との交流をしています。	管理者は、地域住民から認知症についての相談を受けたり、啓発活動等にも取り組んでいる。利用者も認知症カフェやふれあいカフェに出かけ、地域の住民と交流している。自治会に加入し、地域行事に参加したり、こども園や小学校との交流もある。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事等について実践報告し意見交換しています。ご意見に対してスタッフ内で共有する事でサービス向上出来る様に努力しています。	運営推進会議は隔月に開催し、行政から介護保険制度の動向、地域高齢者の現状等の説明を聞いたり、報告や意見交換を行っている。水害等については町と連携して取り組んでいるが、非常時の対応については、検討課題として話し合っている。	運営推進会議は、地域密着型サービス事業所が、提供しているサービスの内容等を地域に明らかにする為の会議でもある。また、サービスの質の確保の為にも、地域代表等の参加を得られる工夫に期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設内でのご利用状況や空所状況、在宅介護困難な方の情報交換等について市町村担当者様との連携を密に取るようにしています。地域ケア会議にも参加しています。	管理者が地域ケア会議に参加しており、関係者と情報交換に努めている。また、危機管理課とは、水害等に備えて防災計画についての検討を進めるなど、連携を密に取り、協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成しています。スタッフでマニュアルを共有して理解を深めています。玄関に関しては、不審者等の回避の為、ご利用者様の安全面を考慮したうえで施錠をおこなわせて頂いております。	身体拘束廃止委員会を定期的で開催している。職員は、身体拘束の定義、拘束が必要な場合の対策等、学習会で学んでいる。安全面を考慮して玄関の施錠はしているが、利用者が外に出たい様子が見られる時には、職員が同行し見守っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行っています。当施設のケアの見直しをするとともに、言葉による虐待にも細心の注意をはらい、職員間で指摘しあったりして防止に努めています。	高齢者虐待防止委員会を定期的で開催し、勉強会でも学んでいる。入浴支援時には、利用者の身体に異常が無い確認している。また、無意識な言葉かけが「スピーチロック」となっていないかなど、職員間で日々注意し合いながら、虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援、成年後見制度に関わる研修会に参加しています。入所時には必要に応じて制度の説明をしています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人ご家族の意向確認、思いを尊重し理解、納得を得たうえで契約を結んでいます。改定が発生した場合は説明しています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様ご家族との関わりの中でご意見ご要望を聞き、応えられる様に務めています。玄関入り口にはご意見箱を設置しています。	家族の訪問が多く、利用者は一緒に外出することもある。職員は、ゆとりを持って家族と接し、意見交換を行っている。毎月送付する便りには、行事や往診予定、利用者の様子がわかる写真を掲載し、家族との信頼関係を深められるよう努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行いスタッフとの意見交換を行っています。年2回の人事考課を行い管理者と面談しスタッフの希望、提案は本社へ報告しています。	地元在住の職員が多く、いつでも管理者に相談できる環境にある。職員から就職希望者の紹介もある。管理者は、職員からの様々な提案を受け止め、運営に反映させている。事業所内の雰囲気も明るく穏やかである。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	人事考課シートを活用し本人自ら目標を設定、努力や実績内容を管理しながら代表へ報告しています。勤務日数や時間などの勤務調整はもちろん、有給の利用など働きやすい環境を整えています。	「働き方改革」に取り組み、職員一人ひとりの希望する勤務日数や勤務時間を把握し、調整しながらシフトを組んでいる。短時間勤務も可能とし、有給休暇等も取得できるなど、職員の雇用につながり定着率も高い。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験度に合わせて研修できる機会を設け参加者が伝達講習を行い共有し、ケアの質の向上に努めています。毎日の申し送りや個々に応じた介護方法を指導する事も行っています。	代表、管理者は職員の資格取得を奨励している。研修日を出勤扱いとし、受講費用も支援している。研修に参加した職員が伝達講師役を担って勉強会を行うなど、事業所全体で職員のレベルアップとケアの統一を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護サービス連絡協議会、地域ケア会議参加。グループホーム同士や他事業所との交流を深める努力をしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様と洗濯たたみや掃除、おやつ作りや食器拭きなどスタッフと共同で行います。利用者様の個性を把握し残存能力に合わせながら生活していただいています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前からの生活リズムを崩さない様に努めています。残存能力を把握しケアプラン更新時やカンファレンス時にスタッフ間で共有する様にしています。	個別ケアの際には、利用者が安心して思いを表出できる雰囲気作りを心がけている。仕草や表情も見逃さないように努め、思いを把握している。家族の声も参考にしながら、職員間で情報を共有し、本人本位の支援実現に向けて努力している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でご本人様の要望に沿う方向性を探っています。リスクを伴うものは時には医師に相談し家族を交えた話し合いを実践しています。	介護計画は、家族の意見や要望を聞いた上で、看護師でもある管理者とケアマネジャーを中心に、関係者で話し合いながら作成している。個別支援記録等も参考に柔軟に見直しを行いながら、家族に説明し同意を得ている。	介護計画作成会議には、出来る限り家族参加での開催が望ましい。利用者の状態を実際に見てもらい、職員の支援について伝えながら、家族もチームとなって介護計画に加われる工夫に期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアを実践した事を介護記録や日誌で共有し、会議でモニタリングしながらプランの見直しを行っています。	日々の個別記録や介護日誌は、タブレット端末を用いて職員間で共有している。職員の気づきも集約され、管理者は、常に携帯で確認することができる。口頭での申し送りも行き、常に利用者の情報共有に漏れないよう努めている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診介助(送迎費なし)外出支援など要望に合わせて柔軟に対応しています。	家族の依頼を受けて、病院への受診同行支援を行っている。個人的な買い物等の付き添い、一時帰宅の送迎や行政書類の手続き代行など、利用者や家族のニーズに合わせて、柔軟に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや地域行事に参加するなどして社会生活を維持できる様支援しています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医は原則変更せず、往診、受診を柔軟に対応しています。緊急時において連携出来る体制も確立しています。	かかりつけ医については、契約時に説明し本人・家族が選択している。受診は原則家族同行とし、緊急時は事業所が対応している。協力医を含め専門医の定期的な往診があり、看護師である管理者と情報共有している。訪問歯科も利用することができる。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時サマリーを提供し、入院中は入院先の関係者と連携を取り、情報収集しています。退院時、可能な時はカンファレンスに参加し利用者様が切れ目ない医療、介護が受けられる様支援しています。	入退院時の手続きは管理者が対応し、家族と連携しながら、利用者が安心して治療に臨めるよう支援している。退院に向けたカンファレンスにも参加し、受け入れ体制を整え、安心して退院できる環境づくりに努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じてご本人様とご家族の意見を確認、尊重しながら終末期には家族、医師看護師スタッフがチームとなり、情報を共有しながら、ご本人様に負担のかからない看取りを心がけています。	契約時に重度化や終末期の対応について、事業所の指針を説明し同意を得ている。状態の変化時は、早い段階で関係者が話し合い、医師、看護師、スタッフが連携しながら、チームケアで対応している。家族、本人の希望を受け止め、「看取り介護計画書」を作成、看取り研修も重ねている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が常勤しています。夜間は急変マニュアルに沿って対応し看護師に連絡出来る体制です。急変対応、急変処置、連絡マニュアルは新人研修の必須事項にしています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ナンウェブ利用者様の姿を地域の方々にわかる様に日々の散歩の際に交流しています。防災用具の見直しや追加をしています。火災訓練は年2回、地震、水害と年1回訓練しています。	年2回火災訓練を実施している。地元在住の職員が多く、家族が消防団のメンバーであることから、地域の防災訓練にも参加している。水害・地震対策についても、行政と話し合い、地域住民の協力を求めることもあるため、日頃から周辺の人と交流するよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時、排泄時などにはプライバシーを守り羞恥心に配慮した言葉かけをしています。入浴時、脱衣所ではカーテンの使用等で羞恥心、プライバシーに配慮しています。	常に、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねない対応に努めている。また、利用者と職員が同じ地域住民として親しい関係にあっても、本人・家族のプライバシーを侵害することのないよう心がけている。脱衣所は、利用者の羞恥心に配慮しカーテンを設置している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いや希望を確認しながら、認知症状に応じ、二者択一など自己決定出来る場面を作っています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の思いを尊重し、可能な限り希望に添えるように支援しています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや下膳など可能な範囲で一緒に行っています。誕生日には食べたい物を伺い出来る限り応じる様に努力しています。	管理栄養士が作成した献立表に基づき、専任の調理師が三食を手作りしている。利用者の嚥下状態に合わせた食事形態で提供し、ほとんどの人が完食できている。おやつ作りは、楽しい時間となるよう工夫しながら、利用者も一緒に行なっている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士(外部)作成の献立に基づき栄養を管理し、普通食からミキサー食まで対応しています。食事、水分量は記録により管理しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔状態に合わせて歯ブラシやスポンジを提供しています。自歯及び入れ歯磨き残しがないか確認して、ある場合は援助しています。入れ歯洗浄剤はスタッフが管理し、清潔を保っています。必要に応じ歯科受診が受けれます。	口腔ケアは、自分で出来る人は見守りとし、できない部分の支援をしている。入れ歯の洗浄などは職員が行なっている。歯科医の訪問があり、個々の口腔内状態の助言を得て、治療が必要な場合は家族に伝えながら、清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	認知症状の度合いやADL状況、排泄パターンの把握により、個別性に配慮した、誘導方法、誘導時間、私用するトイレの選択などを心がけています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	最低週2回は入浴支援しています。季節によってゆず風呂等の楽しみも提供しています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活スタイルを考慮し安心して過ごせる様に使い慣れた寝具を持参しています。日中お休息は基本的に自由ですが、夜間の睡眠障害にならない様に配慮しています。湯たんぽも使用できるようにしています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所時には服用している処方内容に関して留意事項を把握。スタッフで情報共有し看護師が管理しています。症状の変化時は速やかに主治医に連絡しています。観察した事は申し送りでも共有しています。	服薬管理は、看護師である管理者が行い、処方箋変更時は全職員で情報を共有し、体調変化はないか、注意深く観察している。服薬支援時は複数の職員で確認作業を行い、飲み終えた時にも薬袋に残っていないかを再確認し、ヒヤリハットや事故を防止している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日レクリエーションを行います。気候に合わせて外出、散歩するなど気分転換が図れるように支援しています。時季によりイベントを行い、楽しみ喜びが持てる様にしています。	洗濯物たたみ、食事場所の清掃、新聞紙を活用したゴミ袋作りなど、利用者の状態に合わせて、出来る範囲で役割を担えるようサポートしている。毎日、レクリエーションを行ったり、季節のイベントを企画するなど、工夫をしながら楽しみに繋げている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に沿って散歩や買い物、地域サロン運営の喫茶への外出。また、ご家族様と相談、連携して自宅への外出が出来る支援をしています。	利用者の健康状態や天候を見ながら、近隣の散歩や買い物に出かけている。利用者は、2ヶ所で開かれている地域のカフェにも参加し、住民と交流している。梅、桜、紫陽花見学など、四季を楽しめるよう年間外出計画を立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には立替払いを行っています。ご本人様ご家族からの要望があれば本人管理が出来る様にしています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙など通信が自由である事を伝えています。必要に応じてやり取りが出来る様に代弁する事もあります。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備を行い不快なく快適に過ごせる環境を提供しています。イラストや貼り絵など作成したものを提示して季節感や達成感を利用者様が感じる事ができます。	共用の空間は広く、清潔である。温湿度も適切に管理しており、大きな窓から景色を眺めながら季節を感じることができる。食事場所と寛ぎの場を区分し、食後は、ゆったりとできる椅子を用意している。利用者と職員の共同作品を掲示し、季節の花を飾るなど、居心地よい空間になっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの生活スタイルに合わせてながら利用者様との交友関係構築が出来る様に支援しています。共有場にソファを設置して団欒出来る様にしています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、ご本人様ご家族と相談しながら、使い慣れた生活用品を持参し生活しやすい様に居室内配置も考慮しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり安全に過ごせる環境になっています。手すりや補助具を使用し残存能力を低下させず保持できるように努めています。		